

令和5年度予算における、施設の強靱化に関する主な事業内容及び金額

| 駐屯地等名 | 主な事業内容 | 事業額 | 駐屯地等名 | 主 |
|-------|--------|----------|-------|-----|
| 伊丹 | 空調設備 | 約 10 億円 | 防府北 | 飛行場 |
| 千僧 | 空調設備 | 約 19 億円 | 防府南 | 空調設 |
| 青野原 | 空調設備 | 約 6 億円 | 見島 | 管路等 |
| 姫路 | 隊庁舎 | 約 26 億円 | 北徳島 | 防災対 |
| 阪神 | 防災対策 | 約 2 億円 | 徳島 | 防災対 |
| 奈良 | 空調設備 | 約 2 億円 | 小松島 | 防災対 |
| 和歌山 | 防災対策 | 約 0.6 億円 | 松山 | 倉庫 |
| 由良 | 防災対策 | 約 0.8 億円 | 高知 | 空調設 |
| 串本 | 管路等の更新 | 約 0.6 億円 | 土佐清水 | 管路等 |
| 米子 | 空調設備 | 約 9 億円 | 福岡 | 庁舎 |
| 美保 | 格納庫 | 約 53 億円 | 春日 | 管路等 |
| 出雲 | 隊庁舎 | 約 22 億円 | 小倉 | 空調設 |
| 高尾山 | 管路等の更新 | 約 3 億円 | 富野 | 通信設 |
| 日本原 | 空調設備 | 約 0.7 億円 | 飯塚 | 空調設 |
| 三軒屋 | 空調設備 | 約 6 億円 | 久留米 | 空調設 |
| 海田市 | 排水施設 | 約 1 億円 | 前川原 | 通信設 |
| 呉 | 防災対策 | 約 20 億円 | 築城 | 庁舎 |

舞鶴30億 = 21億 (誘導弾整備場改修)
+ 9億 (港湾施設改修)

民報 山添室聴き取り

祝園は5億円 (R6は102億円に)

| | | |
|-----|---------|----------|
| 今津 | 空調設備 | 約 0.3 億円 |
| 大津 | 隊庁舎 | 約 26 億円 |
| 福知山 | 空調設備 | 約 6 億円 |
| 桂 | 空調設備 | 約 1 億円 |
| 宇治 | 空調設備 | 約 4 億円 |
| 祝園 | 火薬庫 | 約 5 億円 |
| 大久保 | 空調設備 | 約 4 億円 |
| 舞鶴 | 火薬庫関連施設 | 約 30 億円 |
| 経ヶ岬 | 管路等の更新 | 約 1 億円 |
| 八尾 | 格納庫 | 約 7 億円 |
| 信太山 | 空調設備 | 約 10 億円 |
| 川西 | 空調設備 | 約 0.7 億円 |

市ヶ谷は空調設備で56億円 (R6は76億円)



| | | | |
|------------------|--|----------------------------|------------------------------------|
| <h3>建設業の許可票</h3> | | <h3>建築基準法による確認済</h3> | |
| 商号又は名称 | 鉄建建設株式会社 | 確認年月日番号 | 令和4年3月31日 000000000000000000000000 |
| 代表者の氏名 | 代表取締役社長 伊藤 泰司 | 確認済証交付書 | 京都府建築主事 |
| 代表取締役 | 徳山 益一 有 | 建築主 又は 建築主 又は 建築主 又は | 京都府 京都市 |
| 資格番号 | 一級建築施工管理技士第2510127号 | 設計者氏名 | 株式会社 中経建築設計事務所 伊藤 泰司 |
| 建設業種 | 特定建設業 | 工事監理者氏名 | 株式会社 中経建築設計事務所 伊藤 泰司 |
| 受けた建設業 | 土木工事業・建築工事業 | 工事施工者氏名 | 鉄建建設株式会社 大阪支店 伊藤 泰司 代表取締役 |
| 許可番号 | 国土交通大臣許可(特-3)第1220号 | 工事現場管理責任者 | 徳山 益一 |
| 発付年月日 | 令和4年2月10日 | 確認済証に係る その他の事項 | |
| <h3>保険関係成立票</h3> | | <h3>鉄骨製作工場名表示</h3> | |
| 発付年月日 | 令和4年11月9日 | 鉄骨製作 | 松ヶ谷鉄工建設株式会社 |
| 保険番号 | 6-1-05-850948-003 | 工場名 | |
| 有効期間 | 令和4年11月8日から 令和6年7月31日まで | 代表者名 | 松ヶ谷 恒夫 |
| 発付場所 | 京都市北区安高1丁目5番1号 鉄建建設株式会社 大阪支店 伊藤 泰司 代表取締役 | 所在地 | 阪神製鐵橋本市千原町第7号1番地 伊藤 泰司 |
| 発付機関 | 京都府建設部 | 認定番号 | TFBH-203770 |



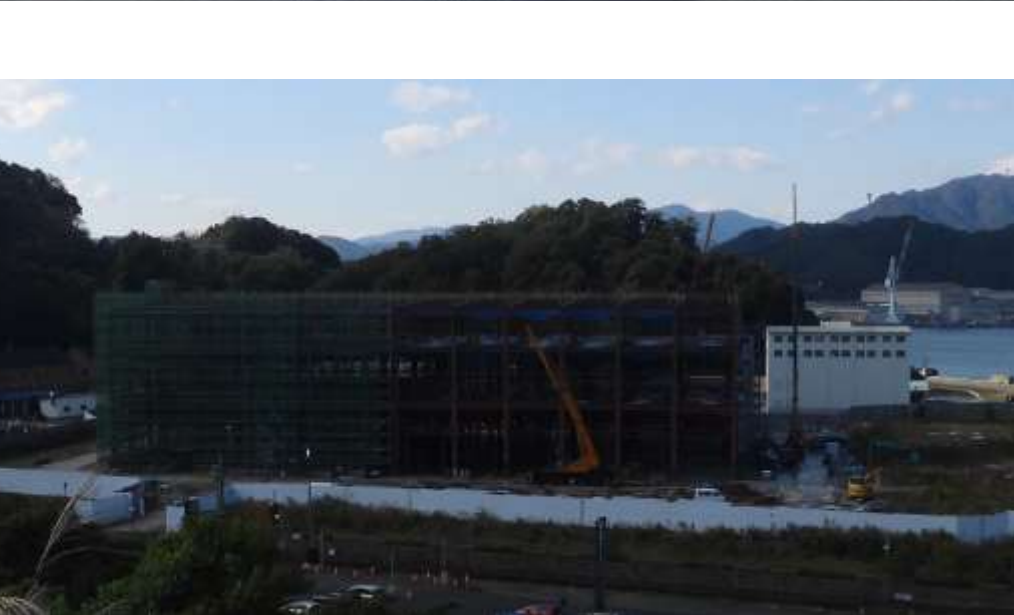
DII地上局アンテナ

Google





| | |
|------|------------------|
| 発注者名 | 防衛省近畿中部防衛局 |
| 工事名称 | 舞鶴(4)倉庫新設電気その他工事 |



舞鶴が戦場となる

海上自衛隊舞鶴地方総監部の地下化に反対
舞鶴地方総監へ申し入れ

舞鶴平和委員会

岸田政権は「安全保障3文書」の閣議決定を強行しました。この「3文書」は、「反撃能力」が「平和安全法制」（戦争法）の下での武力行使の際にも行使されるとしています。つまり、日本が攻撃を受けていなくとも、アメリカへの「攻撃の着手」があったと判断されたら、「存立危機事態」と認定して、他国を攻撃することができるというのです。さらに重大なのは、「3文書」が「我が国の反撃能力については、日米共同でその能力をより効果的に発揮する協力体制を構築する」と、アメリカの指揮下で日米一体となって他国を攻撃する態勢づくりをめざしているのです。先制攻撃をすれば当然海上自衛隊基地のある舞鶴が報復攻撃を受けることとなります。

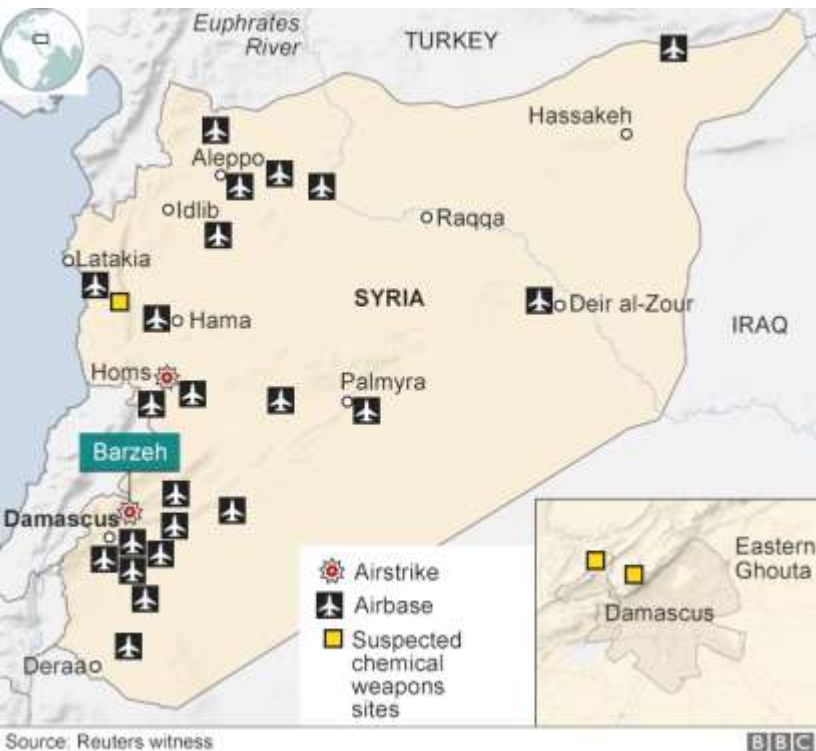
この中で、「3文書」に基づいて、舞鶴の総監部が地下化することが新聞報道されました。

私たち舞鶴平和委員会は1月27日に舞鶴地方総監部に地下化中止を求めて申し入れを行いました。



イージス艦によるトマホーク攻撃

2017年4月7日に米海軍は、シリアの空軍基地に対してトマホークミサイル59発（66発か）を発射しました。攻撃した「ロス」と「ポーター」というイージス艦は、海自イージス艦「こんごう」型と同じ90発撃てる垂直発射装置を装備しています。舞鶴には「こんごう」型の「みょうこう」が配備されています。「あたご」はさらに6発多く発射できる垂直発射装置を装備しています。弾数は公表されませんが、弾道ミサイルを迎撃するミサイルをはじめ対空ミサイルや対潜ロケットなど混載します。しかし、巡航ミサイルは撃墜される可能性が高く、長距離の「反撃」や移動目標の攻撃には不利とされ、むしろ先制攻撃に使用されることが懸念されます。潜水艦に垂直発射装置をつけてトマホーク攻撃をおこなうことが検討されており「専守防衛」とは言えません。



2021年12月修理中の「あたご」VLSは前後に張られたテントの位置にある

イージス・システム搭載艦の能力

SPY-7レーダー

- ・SPY-1の5倍の追尾能力により
ロフテッド軌道や同時複数の弾道ミサイルに対処

CEC

- ・他艦艇が追尾した対空目標をリモートで
射撃・誘導が可能となる
共同交戦能力（CEC）を付与

高出力レーザー等

- ・ドローンによる飽和攻撃に対処
(2032年以降に搭載)

SM-6

- ・巡航ミサイル等に加え極超音速滑空兵器
(HGV) に対し、ターミナル段階で対処

12式SSM能力向上型（艦発型）

- ・対水上戦において、相手の脅威圏外から
相手艦艇に対処（2032年以降に搭載）

トマホーク

- ・島しょ防衛などにおいて、相手の脅威圏外から
地上部隊に対処（2032年以降に搭載）

SM-3ブロックIIA

- ・高い迎撃能力を誇る弾道ミサイル
迎撃用誘導弾を搭載

VLS

- ・各種能力強化に伴い128セル（まや型96セル）に増強
- ・HGV対処（滑空段階）のための将来装備品への拡張性を付与

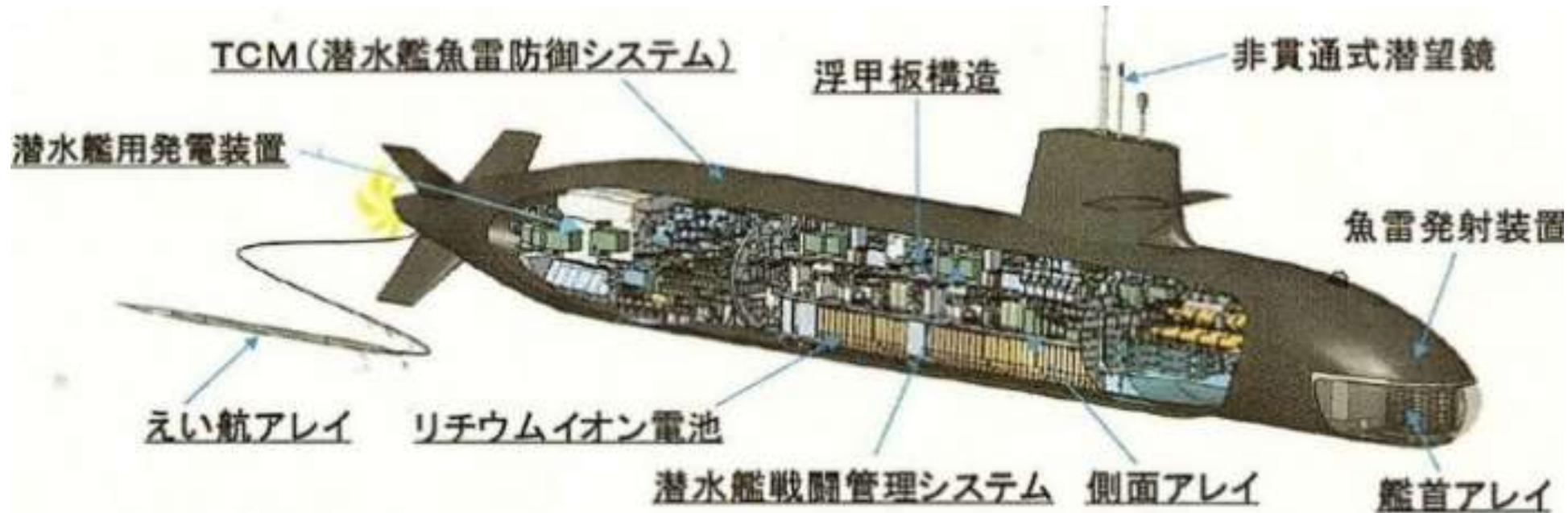
その他

最新鋭のイージス艦と同等以上の能力を保有

注：船型は、設計に応じて今後変更することがある

3

垂直発射装置のかかわりで潜水艦の発射管のはなし



「そうりゅう」型潜水艦の解説図 ↑

垂直発射管がない「そうりゅう」型潜水艦の図では発射管が艦首に6本あるように描かれています。常に隠密行動を求められる潜水艦ですから、個艦戦闘用に2本の魚雷を装填しておくとして、残り4本が「トマホーク」にあてられると考えてみます。

「反撃」の命令を受けて1目標に2発とすれば2目標を攻撃できます。しかし、発射直後は追跡を振り切るように「逃げる」ので、音を探知されないよう再装填はできず、再発射などしてはられない、というのが実情でしょう。

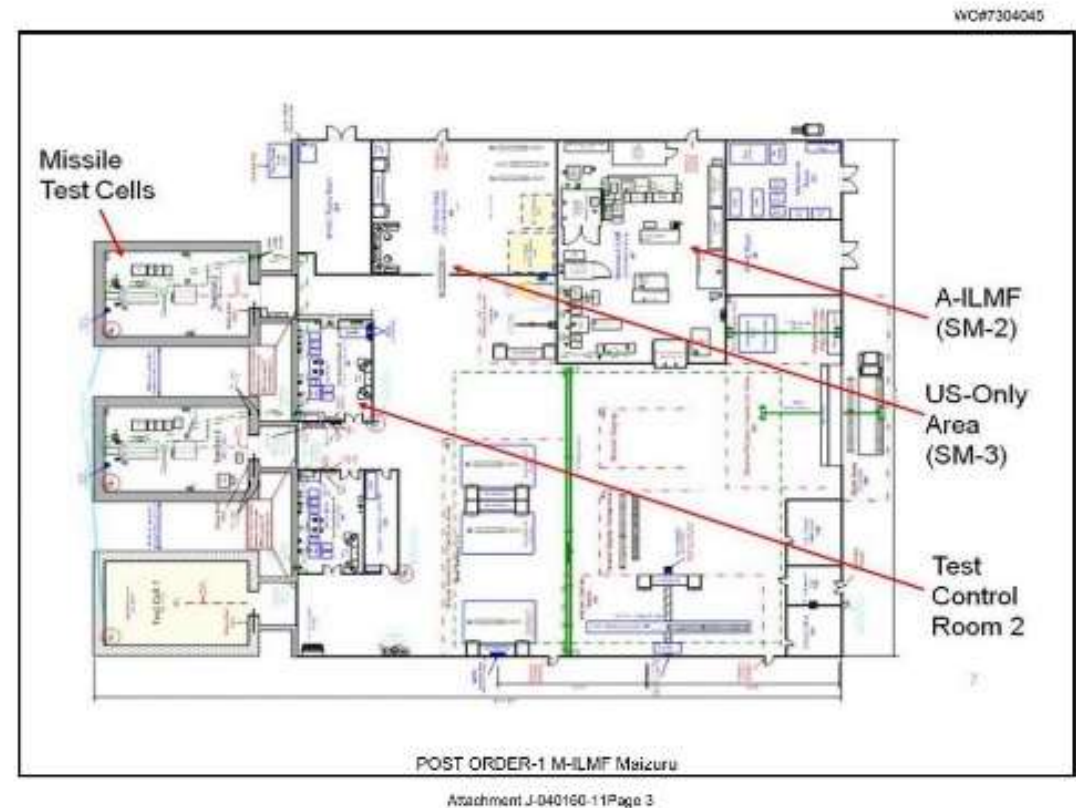
最新型の「タクティカル・トマホーク」は軽量化されたため、強度が低下し、潜水艦の魚雷発射管から発射できなくなっています。そのため垂直発射装置を装備した「実験艦」を製造することが検討されています。

舞鶴のミサイル整備場のなかに「US-Only Area」

舞鶴基地も強化される

海自舞鶴基地の司令部機能を地下に置くといった計画が報道されました。

もともと「US-Only Area」がある迎撃ミサイル整備場を有し、2隻のイージス艦が配備されている、日本海側に置かれた舞鶴基地が最前線化していることを示しています。

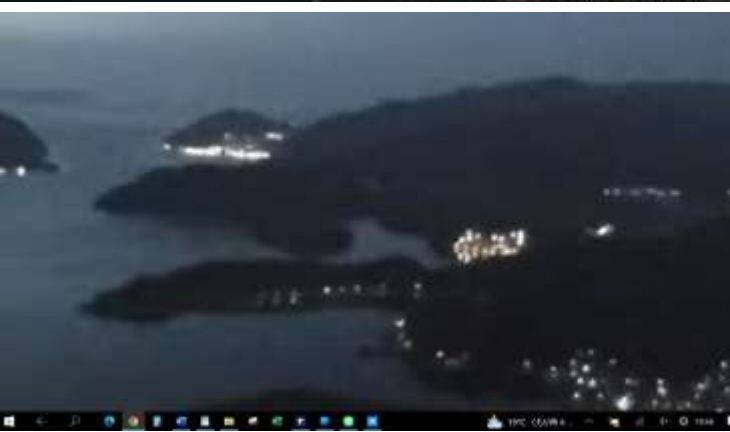




Aegis BMD SM-3 Evolution

Spiral Development with Incremental Capability Improvements

| | SM-3 Bk IIA | SM-3 Bk IB | SM-3 Bk IIA | SM-3 Bk IB |
|----------------------------|---|---|--|--|
| Warhead (KW) | - 5-Cor Warhead - Palletized Stand Off (ASDCE) Control System (ASDACS) | - KW - 2-Cor Warhead - Stand Off (ASDCE) Control System (ASDACS) | - Large Diameter KW - 27-Cor Warhead - Stand Off - 2-Cor Warhead - High Overl SACS - Increased Operating Time | - Lightweight KV (Kestrel) |
| Propulsion | - 12.8" Propulsion | - 12.8" Propulsion | - 21" Propulsion - Increased Missile Vie | - New U.S. Developed 27" Propulsion - High Performance Liquid Upper Stage |
| Launch System (VLS) | - MK 41 Vertical Launch System (VLS) - MK 72 Booster | - MK 41 VLS - MK 72 Booster (Potential Range Safety Mode for Aegis Ashore) | - MK 41 VLS - MK 72 Booster | - Modified MK 41 VLS - Large Diameter Booster |
| Deployment | Deployed Since 2006 PAA Phase I | First Flight 2011 PAA Phase II | First Flight 2015 PAA Phase II | 2020 Deploy Land-Based PAA Phase II |





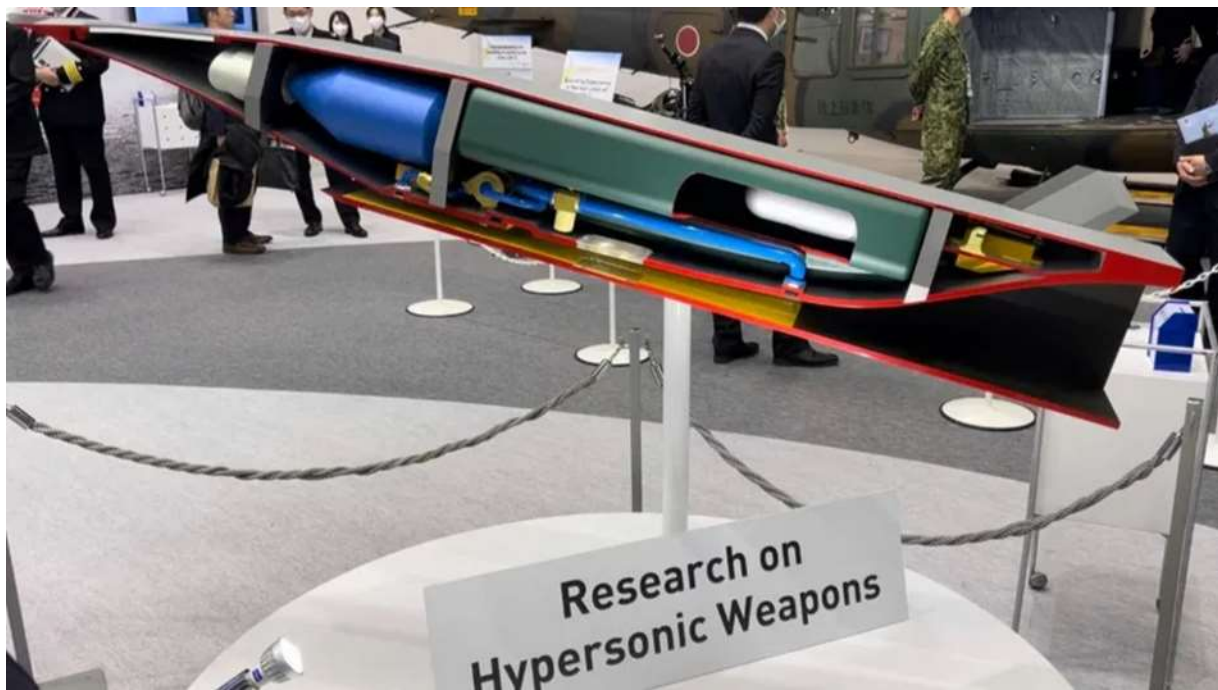


錨地ではストックデルのミサイルなどの積み下ろし作業が行われた。(22.3.16 木元茂夫 撮影)



「継戦能力」

長射程ミサイルを保管する大型火薬庫を今後10年以内に、全国約130基地に整備する計画
海自大湊地方総監部（青森県むつ市）と陸自大分分屯地（大分市）に大型の弾薬庫を2棟ずつ設置＋6棟（祝園分屯地、呉地方総監で調査）
海上自衛隊の横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）や舞鶴地方総監部（京都府舞鶴市）などで弾薬庫の関連施設を整備



防衛装備庁担当者が模型を使って説明した「極超音速巡航ミサイル」の模型



日本版HGVはこれより大きくはないと思いますが・・・



島嶼防衛用高速滑空弾
(能力向上型) (イメージ)

1.2 おおむね10年後における各自衛隊の体制

7つの分野を重視した能力強化により、統合運用及び各自衛隊の体制を整備

統合運用体制

統合運用を強化するため常設の**統合司令部**を創設
 自衛隊サイバー防衛隊を拡充し、サイバー防衛能力を強化
 (令和9年度(2027年度)末までに防衛省・自衛隊全体のサイバー専門部隊を約890人 ⇒ 約4,000人に拡充)
 海上輸送部隊を新編し、自衛隊の**統合輸送体制**を強化

陸上自衛隊

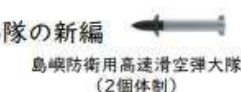
南西地域の防衛を担当する部隊を増強(第15旅団を師団化)

侵攻してくる相手を遠くから阻止・排除するため地上からミサイルを発射する**スタンド・オフ・ミサイル部隊**を配備

■相手艦艇の侵攻を阻止・排除するための部隊を増強
 (2個地对艦ミサイル連隊の新編(配備地は未定))



■相手上陸部隊を排除するための部隊を新編
 (2個島嶼防衛用高速滑空弾大隊及び2個長射程誘導弾部隊の新編(配備地は未定))



サイバー部隊等の増員所要へ対応するため常備自衛官定数を振替え
 (約15.1万人 ⇒ 約14.9万人)



今後配備を予定している主な部隊

| 陸上自衛隊 | 海上自衛隊 | 航空自衛隊 |
|---|----------------------------------|------------------------------|
| 1 個地对艦ミサイル連隊 2 個島嶼防衛用高速滑空弾大隊 2 個長射程誘導弾部隊 1 個高射特科群 1 個対空電子戦部隊 1 個多用途無人航空機部隊 1 個情報戦部隊 | 水上艦艇部隊の一部の群及び隊 無人機部隊 情報戦部隊 | 1 個飛行隊 宇宙領域専門部隊 作戦情報部隊 |

海上自衛隊

情報戦に係る能力を強化するために、**情報戦基幹部隊**を創設
 弾道ミサイルのほか、上空からの攻撃への対処に優れた**イージス艦**を2隻増勢(10隻体制)
 主に弾道ミサイル防衛に対処する**イージス・システム搭載艦**を2隻整備(2隻体制)

航空自衛隊

宇宙作戦能力を強化するため、将官を指揮官とする**宇宙領域専門部隊**を新編
 (配備地は未定)し、航空自衛隊から**航空宇宙自衛隊**へ
 航空防衛力を量的に強化するため、**戦闘機の増勢**(約290機 ⇒ 約320機)
 (無人機による代替も検討)
 粘り強く戦闘を継続するため、機動分散運用を行う体制を構築

「おおむね10年後の自衛隊の体制」では、陸上自衛隊に「地対艦ミサイル連隊」を2個増やし7に、「島嶼防衛用高速滑空弾大隊」を2設置することになっているので、研究開発中の「スタンドオフミサイル」の大半は陸上自衛隊用と考えられます。

「12式地対艦誘導弾能力向上型」は地上、艦艇、航空機からの発射ができるようにするようなので、3自衛隊に振り分けられると思われます。

陸上自衛隊の**祝園分屯地**（京都府精華町など）を整備し、陸自だけでなく、**海上自衛隊の弾薬も保管**できるようにする方針を固めた。**火薬庫を8棟増設する設計・工事費102億円**を計上。保管する弾薬については、「自衛隊の能力が推察されるため、**個々の火薬庫に保管される弾薬の種類はお答えできない**」（2023.12.24 時事）

● 国家防衛戦略

< 2 日米同盟による共同抑止・対処

(1) 日米共同の抑止力・対処力の強化 >

「日米一体となった抑止力・対処力の強化の一環として、日頃から、**双方の施設等の共同使用の増加**、訓練等を通じた日米の部隊の双方の施設等への展開等を進める。」

防衛力整備計画

< 7 持続性・強靱性 (4) 施設整備 >

「スタンド・オフ・ミサイルを始めとした各種弾薬の取得に連動して、必要となる火薬庫を整備する。また、火薬庫の確保に当たっては、**各自衛隊の効率的な協同運用、米軍の火薬庫の共同使用**、弾薬の抗たん性の確保の観点から島嶼部への分散配置を追求、促進する。」

嘉手納弾薬庫地区内の火薬庫を新たに自衛隊が共同使用することとし、具体的な調整を開始

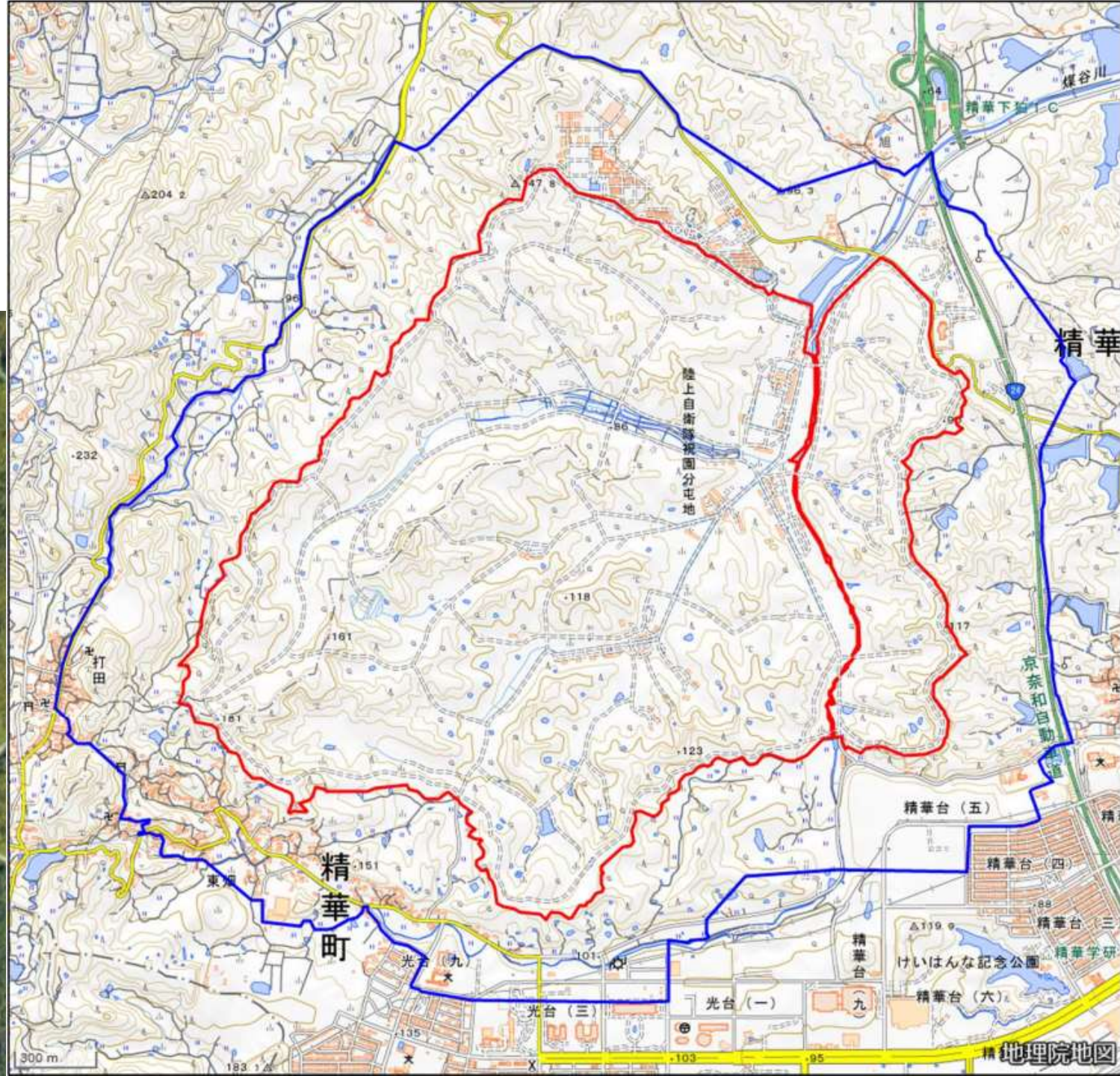
(既に平成15年から、嘉手納弾薬庫地区の一部土地を、火薬類の貯蔵施設として共同使用)

○ **持続性・強靱性の強化のため、今後、火薬庫8棟程度及び弾薬整備場の整備、並びにこれら进行管理する管理地区における隊庁舎の建替等を計画。**

・令和5年度中に基本検討、令和6年度から設計、造成工事等に着手予定。

※今後の状況に応じて更なる火薬庫の整備を検討。

⇒ **施設のさらなる安全性の向上を図りつつ、防衛力整備計画に記載されている火薬庫の協同運用を進めていく予定。**



DARWIN AB SHELTER



Google



PAC3 LAUNCHER JASDF AIBANO



縄田



び部隊に対する補給

京都府南部の陸上自衛隊は

海外派遣の実績もある後方支援（兵站）の部隊

• 桂駐屯地・関西補給処桂支処（京都市南区・西京区）

中部方面隊後方支援隊、第103不発弾処理隊、中央輸送隊第4方面分遣隊など

• 宇治駐屯地・関西補給処（宇治市五ヶ庄）

• 大久保駐屯地（宇治市大久保）

第4施設団本部、第7施設群、第3施設大隊など

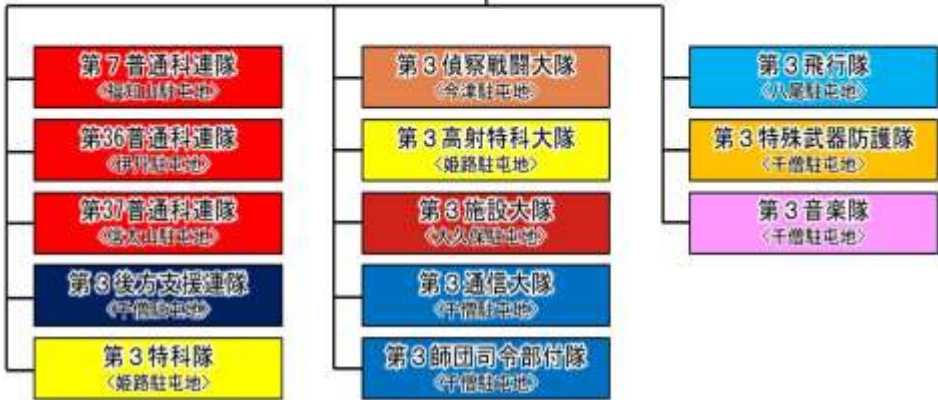


凡例

方面隊境界 — 師旅団司令部 ○
 師旅団境界 — 駐屯地 ● 分屯地 ●
 司令部監部 ● 地方協力本部 ■

第3師団の部隊

第3師団司令部<千代駐屯地>



陸上自衛隊の組織

陸上自衛隊

